

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901308		
法人名	有限会社旭川ケアサービス夢		
事業所名	グループホーム夢		
所在地	旭川市春光台4条9丁目 4-3		
自己評価作成日	平成22年7月	評価結果市町村受理日	平成22年9月29日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://77.system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172901308&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	〒064-080 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成22年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周辺に介護施設が点在する福祉村に位置し、閑静で自然豊かな場所に広い敷地を有効活用し、ゆったりとした時間が流れるような空間を提供していけるよう心がけている。共有のスペースは吹き抜け構造とし、陽光が自然と差し込む開放感のある場所となっており、明るい環境の中で生活出来るようになっていく。大型スクリーンとプロジェクターの設置があり、映画やビデオ鑑賞が迫力ある環境で鑑賞できる。裏庭も作り、夏季は家庭菜園も入居者様と一緒に作り、収穫した作物をその日の食事に使用したりして二重の楽しさを味わっていただけるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旭川市郊外の緑豊かな自然に恵まれた環境にあり、近隣には北海道療育園など各種福祉施設やグループホームがあり「福祉村」と呼ばれている地域に位置している。広い敷地を有し、木造2階建の趣のある建物で、内部は広く明るく、1階に2ユニットが並び安全で機能的な造りとなっている。法人は、他に系列グループホームを有しており、職員研修を共に行う等互いに協力関係があり、利用者サービスに効果をあげている。管理者、職員は質の高いサービスを実施しチームワークがとれている。利用者には個々の力に応じて持てる力が維持できるように生活の工夫がなされ、利用者の表情は明るい。地域の人々とは、近隣福祉施設と交流を図る他、高校生ボランティアの受け入れ、事業所主催のイベントへの招待、町内会行事の参加等互いに協力し連携している。災害対応については、町内会役員や地域消防団員が運営推進会議に出席して、近隣住民としてできることを具体的に提案し協力している。医療面では、提携医往診の他、看護師が内科、精神科等の医療機関と連携をとりながら、適切な支援をして健康管理を行なっている。地域の中で人々と共に安心して生活することのできる事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関連性を考え、その人らしく、安心して支えあい生活出来るような理念を作り掲示している。	地域密着型サービスの意義を踏まえ地域の中で安心して暮らせるように事業所独自の理念を作成し、玄関に掲示しカンファレンス等で唱和して共有を図っている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事(ごみ拾い、花壇設営、町内お祭り等)には積極的に参加するよう心がけ、他当ホームでの運営推進会議や行事・イベントにもご招待させていただいている。	町内会に加入し行事に参加している。近隣の福祉施設行事への参加、事業所主催のイベントの近隣への案内など互いに交流し日常的に繋がりをもって暮らしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で、認知症への理解や浸透をはかり、支援の状況等を報告させていただいている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで会議を開催し、意見交換の場として活用し、出た意見に基づいたサービスを提供できるように心がけている。	定期的に開催し記録し、防災訓練、健康管理等について討議し運営に反映させている。家族、町内会役員等の参加に加え今年は包括支援センターの出席があり今後も期待したい。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村が行う研修会等には出来る限り参加している。その他運営上の不明点や、わからない事等確認し、連携を図りサービス向上に努めている。	日頃から連絡を密に取り情報交換を行い連携を図っている。市で実施している研修会には積極的に参加し常に行政と共にサービス向上を図っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や、カンファレンス等で身体拘束についての職員への周知を図り、安全に生活していただけるような環境を提供している。	マニュアルを整備し、研修や勉強会で身体拘束について正しい理解を得ている。日中玄関は施錠せず見守りながら安全に配慮して自由な雰囲気を大切にしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現状の把握と虐待行為の有無の確認。勉強会やカンファレンスを通じて各自の再確認としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解した上で支援している。今後も旭川地区を支援する会のグループワーク等に参加し、活かせるよう、また職員にも学ぶ機会を作っていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者本人、ご家族と話す機会を設け、相談や尋ねられたこと、一般的に不安に感じるようなことは入念に説明、納得、ご理解いただいている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	なるべく入居者様と多く接しながら、話しやすい環境づくりが出来る様配慮している。ご家族様にも、来所時や電話、お便り等で連絡を取り合いながら、話しやすいよう配慮している。	日頃から話を聴くように努め、運営推進会議や家族面会時には要望の聴取に努めている。意見箱を設置し外部への苦情相談機関を明示している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや、個人面談の機会を設け、意見・提案を可能な限り反映させられるよう努めている。	職員との個人面談やスタッフカンファレンス及びミーティングなどで職員の意見を聴いており、提案事項は運営に反映させるよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の業績、資格、勤務状況等は評価するよう努めている。いい意味で各職員が競争心により向上心を持てるように、各自役割を与えるなどして、工夫している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修、勉強会はまめに行うようにしている。外部研修にも出来る限り参加するように促し、参加者はレポート提出し、職員全員が周知し向上していけるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等に参加し、他職種の方の起こっている現状の情報交換等により、サービスの向上につなげられるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の訴えに傾聴し、不安に感じて居る事や要望を伺えるような環境でコミュニケーションを図るよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、直接的なご家族からのご相談であればご家族と、ワーカー等仲介がある場合は仲介者も含めて、良く話せるよう密に連絡を取り合い、情報交換を行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、御家族の訴えに対し必要な支援を伺い、他こちらからの判断で、介護保険等を有効に利用出来る様サービスの紹介を行い、不安解消していただけるよう支援している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の希望や家族の意向を取り入れながら支援している。他入居者とのコミュニケーション等も取り合いながら、共同生活においての関係構築に努めている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の状態をお知らせしながら、ご家族にも協力を仰いで共に支援していただけるような関係を構築している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に親交の深かった方との面会（個人情報関係で御家族様に了解を得ている方）や、長期入院中での知り合いに定期受診時会いに行く等のコミュニケーションを図ったりしている。	生活暦を把握し家族や今迄大切にしていた人との交流が続けられるように支援している。事業所での面会ではゆっくり寛げるよう配慮している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事に食堂へ誘い合ったり、病院受診時や外出時、車椅子を押してくれたり、手をつないだりして、入居者同士が支えあう姿が自然と見られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じて入居者様やご家族様と連絡を取り合ったりしながら、関係を継続させている方もいる。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支援やコミュニケーションの中で、個々の意向を把握する様心がけている。	日頃の会話や関わりを通して個々の希望を把握するよう努めている。把握困難な場合は関係者から情報を得、できるだけ意向に添うよう努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、ご家族と面談をし状況に応じてご自宅を訪問させていただきながら、これまでの暮らしに限りなく近い環境を提供できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	2~3ヶ月に一度サマリーの作成をし、状態に応じての支援プランの修正を行い、本人とのコミュニケーションを図りながら暮らしの状況把握をしている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、御家族、職員とそれぞれ意見交換できるような話し合いの場を設け、意見やアイデア交換が出来る様にした上で、適切なケアプランが作成されるようにしている。	本人、家族の意向を取り入れ、計画担当者と職員は情報を共有し会議で検討を重ね計画を作成している。3カ月に1度の定期モニタリングの他、現状に即して作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	どの職員が見てもご本人の状態が把握できるような個別的な記録の様式を使用し、情報の共有によって得られた情報を反映しながら、よりよいケアの提供、プラン作成に役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	応じられる状況によっては、出来る限り応じていき、困難な場合でも、柔軟性をもって近い状況に持っていけるよう取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が安全で豊かな生活を送れるよう、運営推進会議に地域の方の出席を仰ぎ、様々な地域資源による協力をお願いしている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される医療機関での診療を受けられるよう支援している。状況に応じて医師と連絡を取ったりしながら、ご本人の健康管理を行っている。	月1度の定期的な提携医の往診により日常健康管理がなされている。必要な検診や希望する医療機関への連絡や通院については職員が付き添い支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人の状態を把握しながら、看護師に報告をし、都度指示を受けるような体制を構築している。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日常から、ご本人の状態について、何かあれば速やかに医療機関に報告したり、入院中であっても状態の確認、情報交換等行いながら、状態に応じて退院の目安を連絡し合っている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関、施設、ご本人、御家族との連携は、都度よくとって状態の説明や話し合いを行っている。少しでも不安軽減ができるよう支援している。	重度化や終末期対応については利用者や家族の意向について確認し文書を交わしている。関係者と方針を共有し事業所としてできるだけ支援をしている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で、救急蘇生の方法等学ぶ機会を持っている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の実施と共に、職員への周知を徹底させている。町内会の方にも協力を仰ぎ、協力体制の構築を行っている。	年3回防災訓練を行ない、夜間も想定し1回は消防署立会いの下実施している。町内会や消防団の協力を得る体制を整えているが更に近隣施設との相互協力を期待したい。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を大切にしながら、声掛けや対応には十分配慮して支援している。	利用者のプライバシーや尊厳に配慮して対応している。マニュアルを整備し個人情報保護を徹底している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の表出が出来る様な、ゆったりとした時間を持ったり、静かな環境で1人1人と向き合えるような支援を行っている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿った、個人の1日の過ごし方が再現されるよう、出来る限りの支援をしている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪染めや化粧、散髪、パーマ、服装等その方の希望に沿っておしゃれが楽しめるよう心がけている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の嗜好を職員が情報共有している。時々、食事が出ないようなものを行事の一環として、皆で作ったりして楽しみを増やせるよう支援している。	献立作成には個々の希望を取り入れている。力量に応じて食器拭き等の片付けを共に行い、行事食では職員と一緒に調理に参加し皆で楽しめるよう工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じた必要摂取量を考え、食事・水分において職員に周知させて支援している。嗜好ばかりを優先しても栄養が偏るため、食べやすいような工夫をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態に応じ、口腔ケアは毎食後支援している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用により、その方の排泄パターンの把握、声掛け、トイレ誘導を行い、失禁を防止出来る様支援している。	排泄チェック表を作成し、個々の排泄パターンを把握しタイミングに合わせてさりげなくトイレに誘導し、自立に向けて支援している。各居室にトイレが設置されているのも効果的である。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、適度な運動は基本的に促している。内服している薬の影響や、個人差もあるため、ご本人に合った予防方法を考えて支援している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に固定で月曜日と木曜日で設定されているが、本人の希望に沿っていつでも入浴は可能である。個々の希望で、ゆったりした大風呂か、プライバシーを大事にする小風呂か選んでいただけるようになっている。	週2回の入浴の他、個々のタイミングや希望に沿い、いつでも入浴可能である。大きい浴場と個人風呂があり選択することができ、清潔と安全に留意してゆっくり入浴できるよう支援している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中においては自室ベッドや、ホールのソファで休息を取られたり、個々の取りやすい方法でとっていただいている。日中、夜間問わずそれぞれの休み方を尊重している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理においては、看護師が中心となって、用法、用量、作用、副作用について周知させている。内服薬変更時の作用の仕方、可能性等も視野に入れ説明している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	もともと過ごしていた環境に近い楽しみや、張り合いを持っていただけるよう、日々の生活の中に取り入れていくようにしている。一般家事、レクや遊び、カラオケ、散歩、畑仕事等。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人からの希望に沿った支援が出来る様に、本人が何を求めているのか、何をしたいか等傾聴し実施出来る様努めている。	日常的には周囲を散策したり、菜園作業で戸外に出る機会がある。個々の希望の外出には家族の協力を得るよう支援している。事業所行事として花見や紅葉狩り、冬祭り見物を実施しており楽しみとなっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理能力のある方においては小額であるが所持されている。趣味や欲しい物がある時には、残高等考慮して本人、家族と購入物の予算を計画的に相談して購入している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に自由である。事情により家族から制限されている場合は考慮して連絡するようにしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭に近い環境づくりを心がけている。季節に応じたディスプレイの工夫、レクに装飾できる物を作成したり、季節感を味わってもらえるように支援している。室内の環境整備や、過ごしやすいような落ち着いた空間を提供出来る様に配慮している。	居間は吹き抜けで高い天窓があり、広く明るく、季節や生活感のある作品が飾られ和やかな雰囲気である。全館バリアフリーで各所に手摺を設置し利用者の安全が配慮されており、温湿度、換気も適切で静かで清潔な環境が保持されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、ホールの使用により、思い思いの状況下で生活出来るよう支援している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から、使い慣れた物、好きなものや馴染みのあるもの等で、本人が居心地の良くなる雰囲気が作れるように、本人や家族と相談して持ち込んでもらったりしている。	各居室には洗面所とトイレが設置されプライバシーが守られている。馴染みの家具や仏壇、思い出の品が持ち込まれ居心地良く暮らせるよう配慮されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	高齢者の方が安全に生活出来るように、施設内はバリアフリー構造とし、必要箇所には手すりやスロープの設置をしている。		